



生産性を上げるため新たな工作設備を導入。外注していたアルミの加工作業を内製化した

## 働き方改革 CASE 06

# 10年先の会社を見据えて これからの働き方を模索

## 松本機械工業 株式会社

### 真の働き方改革の推進へ 社長自ら社員へメッセージ

松本機械工業が製造するのは、パワーチャックやNCロータリーテーブルといった日本のモノづくりを下支えする工作機に欠かせない高精度な機械部品だ。その取引先は、国内はもとより世界中に及ぶ。

そんな松本機械工業が創業70周年を迎えるにあたり、これから10年先の会社を見据えて、企業としての魅力向上、経営力向上のために必要と考えた取り組みが働き方改革だ。

同社が考える働き方改革の目的は、『『人と組織の成長』と『一人ひとりの人生を、生きがい、やりがいのあるものにする』』であり、あくまでも労働時間短縮や有給休暇取得促進は目的達成のための手段と捉えている。松本要社長は、「働き方改

革を進め、個々の社員が自分にとって豊かな人生を送れるよう、ワークライフマネジメントができる会社を目指したい」と話す。

さらに、働き方改革を具体的に進めるため、9つのマスを使って思考を深める「マンダラート」発想法を活用し、同社ならではの8つの取り組みを明確にした。このことを社長自ら全社員にトップメッセージとして発信し、働き方改革の取り組みをスタートさせた。

「働き方改革実践講座」に参加してからは、渥美由喜さんを講師に招き、幹部社員を対象とした社内研修を開催。津田美樹総務課課長は、「仕事だけでなく、家庭等の自分の人生も充実させることで、仕事に生かせるような新しいアイデアが生まれることがわかった」と話し、社内の取り組みを一層推進していく考えだ。

### 取り組みの継続に向け 社員に小さな成功体験を

同社では、社員数や業務量が最も多い生産本部で働き方改革の取り組みがうまくいけば、全社に広められるとの考えから、講座には、宮本弘和生産本部部长も参加。

まずは、現状を把握するため、生

産本部の社員を対象に会社、部署、業務(仕事)について各自がどう思っているかアンケートを実施。多くの意見が寄せられ、今後の取り組みに生かしていく考えだ。

アンケート結果にもあった解決すべき課題の一つが、残業の削減だ。昨今、受注量の急増により繁忙期が続いていることに加え、業界の傾向として常に短納期が求められ、オーダーメイドの受注生産も多いことから、状況をすぐに改善することは難しい。それでも、会社として働き方改革の目的を念頭に社員と一体となり、全面的にサポートしながら取り組みを進める。宮本生産本部部长は、「働き方改革はすぐに効果が出るものでない。だからこそ、取り組む上で、社員に小さな成功体験を実感させてあげることが大切」と話し、生産効率アップを目指す。会社としても、生産効率を上げる設備への投資、省力化につながる生産管理システムの導入等、ハード面での環境を整備している。

「働きやすい環境を整えて、お客様に付加価値の高い商品を提供できるよう、社員が創意工夫し、挑戦できる風土を育ていきたい」と語る松本社長。松本機械工業では10年先の会社を見据え、働き方改革を一步一步着実に進めていく方針だ。



働き方改革に取り組む思いを語る松本社長（中央）と講座に参加した宮本部長（左）、津田課長（右）

#### DATA

■所在地/金沢市示野町二 80 ■代表者/松本 要 ■設立/1948年 ■従業員数/87名(男:74名 女13名)  
■事業内容/工作機械、周辺機器の製造販売